

笑顔をつくる
ミライをつくる
信大病院

ハミング

NO. 103

2026.1

診療科長のごあいさつ

第3回 医療現場のキラリ

自由診療プログラム

「NextReha 信州」で“あきらめない歩行訓練”を

「出会いはいつも突然に〜鉢伏山のシマリスと〜」
撮影：山中 万次郎

感染症内科長就任のご挨拶



信州大学医学部附属病院
感染症内科専門診療科 牛木 淳人

菌や新興感染症への備え、ワクチンに対する正しい理解の普及など、今後の課題は多岐にわたります。これらに対しては、大学病院の立場から、エビデンスに基づく医療情報を発信し、地域全体の感染症対策力の底上げに貢献したいと考えております。

私たちは、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して診療を受けていただけるよう、日々の診療に全力を尽くすとともに、地域医療の一翼を担う存在として、常に開かれた姿勢で皆様と連携してまいります。感染症に関する診療、感染対策、抗菌薬使用などに関して、お困りのことやご不明な点がございましたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。

今後とも、地域の医療を支える皆様と手を携え、信州の医療の発展と持続可能な感染症対策体制の構築に向けて、微力ながら尽力してまいります。引き続き、あたたかいご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2025年4月に感染症内科専門診療科長ならびに感染制御室長を拝命いたしました牛木淳人と申します。就任にあたり、患者の皆様、ならびに地域の医療機関の皆様に向けて、ご挨拶申し上げます。

感染症は、風邪やインフルエンザなど日常的なものから、結核、HIV、さらには近年の新型コロナウイルス感染症のような世界的流行に至るものまで、非常に幅広く、かつ私たちの生活や社会全体に深く関わる重要な医療領域です。近年のパンデミックでは、感染症診療体制の脆弱性が露わになる一方で、医療従事者の献身や連携の力が多くの命を支えてきたこともまた明らかになりました。こうした経験を経て、感染症に対する医療の在り方が見直されつつある今、診療科長という大役を仰せつかりましたことに、身の引き締まる思いであります。

信州大学医学部附属病院における感染症内科および感染制御室は、HIV感染症への対応、感染症の鑑別診断、薬剤耐性菌の管理、抗菌薬の適正使用支援など、専門性の高い領域を担うとともに、一般内科的な視点も持ち合わせた柔軟な対応を心がけております。地域の先生方からのご紹介やご相談に対しても、迅速かつ丁寧にお応えし、患者さんにとって最適な医療が提供できるよう努めてまいります。

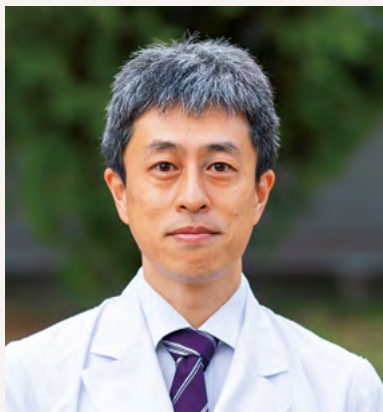
感染症診療は、個別の患者さんへの医療提供にとどまらず、院内感染対策、地域医療機関との連携、行政や保健所との協働、さらには地域住民への啓発など、多層的な活動が求められます。特に、薬剤耐性

- 現職**
- 信州大学医学部内科学第一教室 准教授
 - 信州大学医学部附属病院
感染症内科専門診療科長
 - 同感染制御室 室長

Profile

- 2002年 信州大学医学部医学科卒業
信州大学医学部附属病院第一内科入局（研修医）
- 2003年 長野赤十字病院呼吸器内科医師
- 2005年 篠ノ井総合病院呼吸器内科医師
- 2006年 岡谷塩嶺病院呼吸器内科医師
- 2007年 信州大学医学部附属病院呼吸器・感染症内科医員
- 2010年 同助教（診療）
- 2011年 信州大学大学院 医学研究科修了
同助教（特定雇用）
- 2012年 同助教
- 2014年 同講師、同感染制御室副室長兼任
- 2015年 同呼吸器・感染症・アレルギー内科講師
（所属診療科名称変更）
- 2020年 同医療情報部兼任
- 2020年 同医療情報部准教授、副部長
- 2023年 信州大学医学部内科学第一教室准教授、
信州大学医学部附属病院呼吸器・感染症・
アレルギー内科副科長
- 2025年 信州大学医学部附属病院感染症内科専門診療科長、
感染制御室長

リウマチ・膠原病内科長就任のご挨拶



信州大学医学部附属病院
リウマチ・膠原病内科 岸田 大

2025年7月より、信州大学医学部附属病院リウマチ・膠原病内科の科長を拝命いたしました岸田大と申します。微力ではございますが、地域医療の発展と患者さんのより良い診療に貢献できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は長野市篠ノ井の出身で、2005年に信州大学医学部を卒業しました。2008年に愛媛県の道後温泉病院で関節リウマチ診療の奥深さを学び、以降は信州に戻り臨床の最前線で研鑽を重ねてまいりました。

当科では関節リウマチをはじめ、リウマチ性多発筋痛症、乾癬性関節炎などのリウマチ性疾患、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、全身性強皮症、血管炎症候群などの膠原病といった、多岐にわたる自己免疫疾患を対象に、外来・入院診療を行っております。これらの疾患は、発熱や関節痛、皮疹に加え、間質性肺炎や腎障害、消化器症状、神経症状などの多彩な臓器障害を伴う場合があり、診断や治療に高度な専門性が求められる領域です。当院では、生物学的製剤やJAK阻害薬、免疫抑制療法を含む最新の治療を導入しつつ、病態や生活背景に応じた個別化医療の提供を重視しております。また、他診療科や医療スタッフとの密な連携体制を整え、全身管理が必要な症例にもチームで対応しております。

また近年、自然免疫の異常を背景に、発熱などの炎症を繰り返す疾患群が注目されており、自己免疫疾患と対比し自己炎症疾患と呼ばれています。家族

性地中海熱、VEXAS症候群といった遺伝子変異が原因で発症する疾患のほか、成人発症スチル病、ベーチェット病など全身性の炎症性疾患も広義の自己炎症疾患とする考え方が広まってまいりました。当科では必要に応じた遺伝子検査を含め、全身評価を迅速に行うことで適切な診断と治療に結びつけております。なかでも家族性地中海熱については国内有数の診療拠点として、全国から遺伝子検査や診療のご相談をお受けしております。

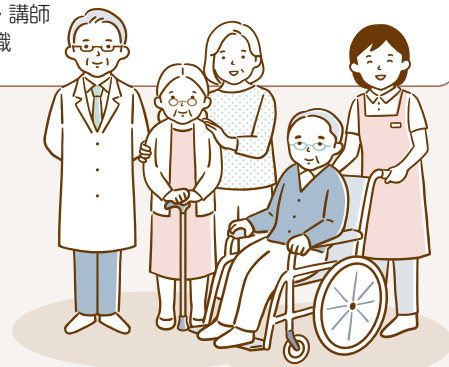
現在、自己免疫・自己炎症疾患の治療は飛躍的に進歩しており、選択肢も大きく広がっています。上記のような症状や疾患でお困りの方がおられましたら、ぜひ一度当科までご相談ください。当科では今後とも、地域の先生方との連携を深め、リウマチ・膠原病診療のさらなる質向上に努めてまいります。どうぞお気軽にご相談・ご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

現職

- 信州大学脳神経内科
リウマチ・膠原病内科 講師
- 信州大学医学部附属病院
リウマチ・膠原病内科 診療科長

Profile

- 2005年 信州大学医学部卒業
長野県厚生連篠ノ井総合病院（初期研修）
- 2007年 信州大学脳神経内科、
リウマチ・膠原病内科（医員）
- 2008年 道後温泉病院リウマチセンター（愛媛県）
- 2010年 信州大学脳神経内科、
リウマチ・膠原病内科（医員）
- 2012年 同・助教
- 2021年 同・講師
- 2025年 現職



産科婦人科長就任のご挨拶



信州大学医学部附属病院
産科婦人科 宮本 強

2025年11月より、信州大学医学部附属病院産科婦人科の診療科長および分娩部部長、生殖医療センター長を拝命いたしました、宮本強と申します。以後、お見知りおきいただきますよう、よろしくお願いいたします。

産科婦人科には、婦人科腫瘍や子宮内膜症を主に扱う婦人科（南病棟6階女性フロア）、妊娠分娩管理を行う産科（南病棟4階 分娩部）、不妊症診療を行う生殖医療（南病棟5階 生殖医療センター）があり、それぞれ外来を開設しています。各分野は独立したのではなく、相互に連携して診療にあたっております。

当院産科婦人科の特色として、婦人科腫瘍では、卵巣がん、子宮頸がん、子宮体がんをはじめとした婦人科悪性腫瘍を中心に、県内全体から紹介を受けて診療にあたっております。手術や薬物療法、放射線治療に対応し、本邦でのトップレベルの治療や先進的な治療を行っております。特に、他施設では施行困難な高難度手術も積極的に行っています。また、初期がんや良性疾患、骨盤臓器脱（子宮脱）に対しては、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術といった、お腹の傷が小さく術後の回復が早い低侵襲手術を積極的に施行しています。

また産科では、正常妊娠分娩管理から、妊娠高血圧症候群などの合併症妊娠の周産期管理を取り扱っています。新生児集中治療室（NICU）や麻酔科をはじめ、多くの診療科と連携して、重症例にも対応できる体制をとっております。また、正常妊娠分娩で

は、助産師中心で対応させていただく助産師外来、院内助産分娩を行っていき、妊産婦さんの幅広いご要望にも柔軟に対応できる体制としております。

生殖医療センターでは、体外受精などの一般的な生殖補助医療は勿論、高度な培養技術も駆使して治療にあたっています。また、近年、悪性腫瘍治療の薬物療法により卵巣や精巣の機能が失われることが問題となっており、私たちは、その前に卵子や精子の保存、もしくは受精卵の保存を行うがん生殖医療にも積極的に取り組んでいます。

産科婦人科で診療を受けられる患者さんは、それぞれ、多くの不安を抱えながら治療を受けられています。私たちは看護師・助産師と共に、関連する他の診療科や部署とも密に連携し、患者さんの不安に寄り添い、支えながら診療を行えるよう心がけています。そして地域医療機関や診療所と連携し、長野県の産婦人科診療を支える最後の砦として、今後も役割を全うしていきたいと考えています。

現職 ●信州大学医学部産科婦人科学教室 教授
●信州大学医学部附属病院
産科婦人科 診療科長
分娩部 部長
生殖医療センター センター長

Profile

1994年 信州大学医学部医学科卒業
信州大学医学部附属病院産科婦人科医員（研修医）
1996年 厚生連北信総合病院産婦人科
1998年 諏訪赤十字病院産婦人科
2000年 飯山赤十字病院産婦人科副部長
2001年 信州大学大学院医学研究科（大学院生）
2005年 信州大学医学部附属病院分娩部助教
2010年 同産科婦人科講師
2016年 米国ジョンスホプキンス大学
婦人科病理学系研究室
2017年 信州大学医学部産科婦人科学教室准教授
2025年 同教授



第3回

医療現場 の キラリ

作業療法士紹介

い ど よしかず
井戸 芳和

現職

リハビリテーション部 療法士長

小学1年生の頃、姉と

幼少期の一枚

変わらぬ思いで
皆さまの健康に寄り添って
いきたいと思います。



医療現場での姿



普段のお仕事の様子



永年勤続表彰



PICK UP! 趣味 & マイブーム



家族で満喫する、思い出ショット

岐阜県は飛騨川、飛水峡という日本の地質百選にも選ばれた大自然のなかで生まれ育ちましたので、ついつい訪れた地域の地形や地質に目がいってしまいます。今年度は白馬八方の蛇紋岩に圧倒されました。雨降りだったので、その風化しやすさ＝滑りやすさも体験できよかったです。気軽に行ける信州の絶景スポットを教えてもらえると嬉しいです。



三畳紀～ジュラ紀の岩石がつくる
切り立つ古代の絶壁、飛水峡

Q

&
コーナー

A

ライフワークバランスについて、Offの過ごし方、健康法、人生観、などさまざまな質問を通して、素顔をご紹介します。

Q

今の職業を目指した理由はなんですか？



医短生のころ

A

小さな集落でしたので、両親、祖父母はもちろん、近所の方々にも温かく見守られ育ちました。高齢化が進む地域にこそ必要な職業と考え、作業療法士を目指しました。

Q

人生で最も影響を受けた人、または言葉はなんですか？
(座右の銘など)

A

やはり反町康治元松本山雅監督の「日本のトップ15に入りたい」が忘れられません。ちょうど技師長（当時の名称）になったばかりで、リハビリテーション部の方針や組織づくりの参考にさせていただきました。

Q

長野県の好きな場所はどこですか？

A

岡谷市のやまびこスケートの森アイスアリーナによく子どもを連れて行きます。氷の上では自身の重心がどこにあるかよくわかるのでおもしろいです。

Q

大学時代のサークル活動はなんでしたか？

A

男女比1:9の学科に面食らっていたところ、気づいたらアメリカンフットボール部に入学していました。縁の下の力持ちのラインマンを任せてもらったのが嬉しくて、20kg増量しました。左膝前十字靭帯断裂という苦難もありましたが、部活動を通じ「苦勞を厭わず、献身的に働くこと」「チームメイトの個性や価値観を尊重すること」「わかりやすい言葉で伝えること」などの大切さを学びました。これらは現在の仕事にも活かされていると感じます。



井戸療法士長からのご紹介で、次回は看護部 小岩井 千夏さんにご登場いただきます。

酒井康成療法士が2025年度 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学会賞を受賞

研究「間質性肺疾患患者における6分間歩行試験から得られる労作時Desaturation評価の有用性」が高く評価され学会賞を受賞しました。本受賞は、日頃の臨床と研究活動の成果が学術的に認められたものです。



受賞会にて（左：酒井療法士 右：花岡病院長）

2025年度日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学会賞を受賞させていただきましたリハビリテーション部主任理学療法士の酒井康成と申します。この度、非常に名誉ある賞に選出していただき大変光栄に思うとともに、ご評価をしていただきました選考委員の先生方ならびに私を推薦していただきました花岡正幸病院長に深く感謝申し上げます。

今回受賞した研究は、入院中の間質性肺疾患患者を対象に、運動耐容能（体力）の指標である6分間歩行試験において観察される酸素濃度低下（Desaturation）の評価有用性を検討したものです。私は

2017年に本研究の着想を得て、まず「SpO₂ Recovery Index」という指標が肺拡散能と強く関連し、さらに呼吸器イベントによる再入院に大きく影響することを明らかにしました。その後、6MWTで得られる「Desaturation level」が、在宅酸素療法導入時の酸素流量設定や携帯型酸素濃縮器の使用基準として有用であるかを検討しました。その結果、安静時の酸素濃度よりも6MWTで得られたDesaturation levelによる評価が、在宅酸素療法における労作時酸素流量および携帯型酸素濃縮器導入の指標として有用であることが示されました。さらに、6MWTを用いて労作時における酸素濃度を評価することは非常に簡便かつ標準化しやすく、在宅酸素療法処方の簡略化や導入を円滑に進めるうえで有用な指標であることが示唆されました。

今回の受賞を糧に、今後も診療業務に携わりながら、臨床研究にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。リハビリテーション部の目標「アカデミックな組織」とするという責務を念頭に、地域医療のさらなる発展、後輩の育成に貢献できるよう努力していきたいと思っております。最後になりましたが、本当に名誉ある賞をいただくことができとても嬉しい幸いです。ありがとうございました。 文：酒井康成



学術集会での様子



自由診療プログラム

「NextReha 信州」で“あきらめない歩行訓練”を

ロボット技術と専門医療チームの連携により、保険適用外の方にも歩行トレーニングの機会を提供します。

リハビリテーション部で、「信州ロボティックリハビリテーション・ラボ (Shinshu Robotic Rehabilitation Lab)」を開始しました。

そのなかで、いくつかの先進的なリハビリテーションプログラムを提供しますが、まず最初に医療用HAL下肢タイプを用いた歩行トレーニング「NextReha 信州」を開始しました。

本プログラムは、最先端のロボット技術を活用し、患者さんの歩行機能回復をサポートします。使用するのは、医療機器として承認されたHAL医療用下肢タイプです。装着者の筋電位信号を検出し、意思に沿った動作を補助することで歩行を支援します。

現在、HAL医療用下肢タイプを使用するリハビリテーションの保険適用は特定の神経・筋疾患に限られていますが、「NextReha信州」では、脳卒中や脊髄損傷、腰部脊柱管狭窄症など保険適用外の方にも歩行トレーニングの機会を提供します。

トレーニングは1回1時間を基本とし、頻度や間隔は患者さんの希望に応じて柔軟に設定可能です。開始前にはリハビリテーション科専門医による診察・評価を行い、安全性を確認します。さらに、適応外使用となるため、当院倫理委員会の審査を経て実施します。



医療用HAL下肢タイプ (松森主任理学療法士)

導入の流れ

1. 主治医から当院リハビリテーション科への紹介
2. 専門医による診察・評価
3. 適応判断
4. 倫理委員会審査
5. トレーニング開始

※1～3までは保険診療となります。

料金：ロボットスーツを用いたリハビリテーション ア リハビリテーション料

(ア) 60分1回コース 18,600円

(イ) 75分1回コース 21,500円

(ウ) 60分10回コース 167,400円

(エ) 75分10回コース 193,500円

イ 装着条件の設定料 初回のみ 2,400円

※60分もしくは75分は希望で選択可能です。

※10回コースは1回分お得な金額となっています。

最新のロボット技術と専門医療チームの連携により、患者さん一人ひとりに最適なプログラムを提供します。歩行機能の改善を目指す方は、ぜひご相談ください。

文：堀内博志



記者発表の様子 (左：井戸療法士長 右：堀内教授)

お問い合わせ先

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科

■Tel: 0263-36-2836

■E-mail: rihaka@shinshu-u.ac.jp

病院ホームページをリニューアルしました

患者さんとご家族が利用しやすくなることを目指し、1年間の準備期間を経て、9月1日に病院ホームページをリニューアルしました。

必要な情報にアクセスしやすいような配置、どなたでも読みやすいようなフォント、サイズを意識し、作成しました。今後も最新の情報を発信し続けていきます。

文：病院広報企画室



電話番号表 (市外局番 0263)

予約専用AI電話：050-1724-9464

外来予約・変更・キャンセル・予約確認の連絡はこちら
お掛け間違いにご注意ください

患者さん専用ナビダイヤル：0570-00-3010

■ 医事課

収入係	37-2763
入院係	37-2759
外来係	37-2757

■ 医療支援課

診断書係	37-2762
------	---------

■ 患者サポートセンター

総合医療相談室	37-3390
がん相談	37-3045

セカンドオピニオン外来受付	37-3111
医療や治療についての相談	37-3390
移植に関する相談	37-2930
医療福祉相談	37-3390
こころの相談	37-3390
栄養相談	37-2764
薬の相談	37-3013
医事相談	37-2762
地域医療連携支援室	37-3370

くすりの相談室	37-3013
高度救命救急センター	37-2222
先端細胞治療センター (分子細胞診療室)	37-3220
肝疾患診療相談センター	37-2922
生殖医療センター	37-3106
入退院支援室	37-3175

**相談窓口 受付時間：月～金（祝除く）
9時～17時**

編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、当院の運営に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年も、医療資材や光熱費の高騰など厳しい環境が続いておりますが、私たちは「質の高い医療の安定提供」という使命を揺るぎなく果たすため、業務の効率化と健全な財務体制の確立に努めてまいります。

また、皆様からお寄せいただく温かいご支援・ご寄付は、医療の質向上や機器整備の大きな力となり、患者様により安心していただける医療環境の実現につながっております。新しい年も、盤石な経営基盤のもと、地域の皆様の健康と安心を守る砦として邁進してまいります。本年も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

広報企画室員 西沢智恵美

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか？ 写真を募集しております！

お名前・写真のタイトルをご記入の上、
byouin_kouhou@gm.shinshu-u.ac.jp

へお送りください。

写真は2MB以上5MB未満のjpgデータ

【お問合せ・応募宛先】 信州大学医学部附属病院 総務課
総務係 TEL：0263-37-3410 ※応募はメールのみ受付